

作成日2020/4/28

## 安全データシート(SDS)

### 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称: 蛍光スノースプレー ブルー

種類: 着色剤

製造会社:

会社名: シンロイ株式会社

住所: 神奈川県鎌倉市台2-19-12

担当部門: 品質管理課

電話番号: 0467-43-2183

FAX番号: 0467-43-1510

整理番号: 2M019

用途:

業務用

一般用

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類:

物理化学的危険性:

火薬類	: 区分外
可燃性/引火性ガス	: 分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	: 区分2
支燃性/酸化性ガス	: 分類対象外
高压ガス	: 分類対象外
引火性液体	: 分類対象外
可燃性固体	: 分類対象外
自己反応性化学品	: 分類できない
自然発火性液体	: 分類できない
自然発火性固体	: 分類対象外
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類できない
酸化性液体	: 分類できない
酸化性固体	: 分類対象外
有機過酸化物	: 分類できない
金属腐食性物質	: 分類できない

健康に対する有害性:

急性毒性-経口	: 区分外
急性毒性-経皮	: 区分外
急性毒性-吸入(気体)	: 分類対象外
急性毒性-吸入(蒸気)	: 区分外
急性毒性-吸入(粉塵/ミスト)	: 区分外
皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 分類できない
呼吸器感作性	: 区分外
皮膚感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 区分3

(麻酔作用)

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	: 分類できない
水生環境慢性有害性	: 分類できない
オゾン層への有害性	: 分類できない

GHSラベル要素:

絵表示またはシンボル:



注意喚起語:警告

危険有害性情報:

- ・可燃性/引火性の高いエアゾール。
- ・高压容器:熱すると破裂のおそれ。
- ・眠気又はめまいのおそれ。

注意書き

安全対策:

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・熱, 火花, 裸火, 高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・取扱い後はよく洗うこと。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ・粉じん, ヒューム, ガス, ミスト, 蒸気, スプレーを吸入しないこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

応急措置:

- ・火災の場合には、消火に泡、散水又は噴霧水、炭酸ガスを使用すること。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合は、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- ・気分が悪い時は、病院か医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズが容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

保管:

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密栓しておくこと。
- ・施錠して保管すること。
- ・日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄:

- ・内容物を使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS分類に該当しない他の危険有害性:

- ・可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
- ・液化ガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。

ジメチルエーテル:

吸入:咳、咽頭痛、錯乱、嗜眠、意識喪失。皮膚:液体に触れた場合、凍傷。眼:発赤、痛み。

短期ばく露の影響:眼、気道を刺激する。この液体が急速に気化すると、凍傷を起こすことがある。

中枢神経系に影響をあたえることがある。意識が低下することがある。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質/混合物の区分:混合物

化学名または一般名:情報なし

化学特性(化学式等):情報なし

毒物及び劇物取締法:該当せず

成分:

成分名	CAS.No	含有量(%)	安衛法 通知物質	毒劇法	PRTR法
蛍光着色剤水分散液	非開示	75.0~80.0	—	—	—
ジメチルエーテル(噴射剤)	115-10-6	20.0~25.0	—	—	—

#### 4. 応急措置

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

吸入した場合:

- ・蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。
- ・呼吸が不規則か止まっている場合には、気道を確保し、人工呼吸または酸素吸入を行う。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること、気分が悪い時には、速やかに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合:

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
- ・ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水又は温水で洗い流す。
- ・汚染された衣類を取り除くこと。
- ・また大量に付着したり、全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。

目に入った場合:

- ・噴射したガスやミスト、泡沫等が眼に入った場合、清浄な水で数分間注意深く洗うこと。
- ・次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。
- ・眼が開けられない場合、無理にあげさせない。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。

飲み込んだ場合:

- ・誤って飲み込んだ場合には、水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。
- ・自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
- ・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

- ・眠気又はめまいのおそれ。

応急措置をする者の保護:

- ・換気を行う。
- ・救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋、保護衣等)を着用する。
- ・下記及び着火源に注意する。

医師に対する特別な注意事項:

- ・情報なし

---

#### 5. 火災時の措置

消火剤:泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス(容器を冷却し容器内圧をあげないもの)

使ってはならない消火剤:棒状水

特有の危険有害:

- ・加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・内用液等が放出する恐れがある。
- ・火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。
- ・空気と爆発性混合気を形成する。
- ・空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。遠距離引火の可能性があり、より低い場所にたまり、酸素不足を引き起こすことがある。
- ・光や空気の影響下で爆発性過酸化物を生成することがある。

特有の消火方法:

- ・容器が熱に晒されているときは、移さない。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行うものの保護:

- ・適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。
  - ・消火活動は十分距離をとって、風上から行う。
-

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

- ・付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・風上に留まる。低地から離れる。
- ・密閉された場所に立ち入る前に換気する。
- ・漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置する。
- ・高濃度のガスを吸入した場合、窒息の恐れがあるので、陽圧自給式呼吸器等、呼吸器保護具を着用する。

環境に対する注意事項:

- ・河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。

封じ込め及び浄化の方法/機材:

- ・乾燥砂等の不燃性のもに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理をする。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる。)
- ・回収液には可燃性の気体が溶解しているため、回収直後に密閉してはいけない。
- ・期待を放出させてから容器を密閉すること。
- ・衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- ・蒸気発生が多い場所は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

二次災害の防止策:

- ・付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。
- ・漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
- ・火花を発生しない工具を用いる。
- ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・ガス等が拡散するまでその場所を隔離する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(推奨):

- ・取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。
- ・静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。作業衣、作業靴等は導電性のものを使用する。
- ・工具は火花防止型の物を使用する。

局所排気・全体排気:

- ・換気のよい場所で取り扱う。
- ・取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気のある場所で行うこと。
- ・密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
- ・気体の液化ガスは空気より重く低い場所に滞留しやすい。使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性があるので、密閉された場所や換気の悪い場所で取り扱わないこと。

注意事項:

- ・全ての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
- ・ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。
- ・ミストを吸入しない。
- ・火炎に向かって噴射してはならない。
- ・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する-禁煙。
- ・容器が破裂する恐れがあるので、温度が高くなる場所に置かない。
- ・休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
- ・取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。
- ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取り扱いをしてはならない。
- ・混触禁止物質と接触しないように注意する。

衛生対策:

- ・取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

保管

技術的対策:

- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保管条件:

- ・幼児の手の届かない所に置くこと。
- ・直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
- ・缶が錆びて内容物が漏出、又は噴射する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
- ・熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること-禁煙。
- ・40℃以上になる所には置かないこと。
- ・混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
- ・保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- ・その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料:

- ・高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。
- ・容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。

---

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策:

- ・排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- ・取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
- ・屋内作業の場合は作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。
- ・タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

管理濃度/許容濃度:

化学物質名	管理濃度	許容濃度	許容濃度	許容濃度
	安衛法	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
ジメチルエーテル	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない

保護具:

- ・必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家の意見を聞いて実施すること。

呼吸器の保護具:

- ・空気呼吸器、酸素呼吸器、送気マスク等

手の保護具:

- ・保護手袋(不浸透性、耐薬品性等)

眼の保護具:

- ・保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等

皮膚及び身体の保護具:

- ・保護衣(長袖、不浸透性、導電性)、導電性の靴、前掛け(耐溶剤性)等

---

9. 物理的及び化学的性質

外観:

物理的状态:液体

色:ブルー

臭い:強力な独特なにおい

pH:6~7(着色剤)

融点/凝固点: [噴射剤] -138.5[℃] [着色剤] 情報なし

沸点、初留点、沸騰範囲: [噴射剤] -24.8[℃] [着色剤] 100[℃]

引火点: [噴射剤] -41.4[℃] [着色剤] 情報なし

自然発火温度(発火点): [噴射剤] 350[℃] [着色剤] 情報なし

燃焼性(固体、ガス):情報なし

燃焼又は爆発範囲の上限/下限:[噴射剤] 27.0[vol %] / 3.4[vol %]

蒸気圧: [噴射剤] 4450[mmHg] (25℃) [着色剤] 0.023(25℃)

蒸気密度: [噴射剤] 1.6(空気=1)

比重(相対密度): [噴射剤] 0.661(空気=1) [着色剤] 1.03(20℃)

水に対する溶解度: [噴射剤] [36wt%](20℃, 4.8bar) [着色剤] 水に分散

オクタノール/水分係数: [噴射剤] log Pow=0.10 [着色剤] 情報なし

分解温度:情報なし

その他:情報なし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性:

- ・40℃以上になると破裂の恐れがある。
- ・常用温度で缶内圧は約0.44MPa。
- ・静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。
- ・高温の表面、火花又は裸火により破裂し発火するおそれがある。

### 化学的安定性:

- ・通常の使用において安定している。

### 危険有害反応可能性:

- ・高压ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。
- ・可燃性のガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。
- ・換気の際には、周囲に着火源の無いことを確認すること。
- ・酸化性物質と激しく反応する。
- ・ジエチルエーテル: 空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。遠距離引火の可能性があり、より低い場所にたまり酸素不足を引き起こすことがある。
- ・ジエチルエーテルは、光や空気の影響かで爆発性過酸化物を生成することがある。
- ・燃焼すると、刺激性のヒュームと生成する。
- ・酸化剤と反応する。

### 避けるべき条件:

- ・40℃以上の高温、直射日光、静電気、衝突、火気

### 混触危険物質:

- ・酸化剤

### 危険有害な分解性生成物:

- ・燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物等)を発生する。

### その他危険性情報:

- ・蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

---

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口): 内用液は区分外に分類。

急性毒性(経皮): 内用液は区分外に分類。

急性毒性(吸入:ガス): 本品はエアゾールであり、GHS定義による気体ではない。  
噴射材は区分に該当しない。

急性毒性(吸入:蒸気): 内用液は区分外に分類。

急性毒性(吸入:粉じん/ミスト): 内用液は区分外に分類。

皮膚腐食性/刺激性: データ不足のため分類できない。

眼に対する重篤な損傷/刺激性: データ不足のため分類できない。

呼吸器感作性: 内用液は区分外に分類。

皮膚感作性: 内用液は区分外に分類。

生殖細胞変異原性: 内用液は区分外に分類。

発がん性: データ不足のため分類できない。

生殖毒性: データ不足のため分類できない。

授乳影響: データ不足のため分類できない。

特定標的臓器/全身毒性-単回暴露: データ不足のため分類できない。

噴射剤のジエチルエーテルは区分3(麻酔作用)に該当。

特定標的臓器/全身毒性-反復暴露: データ不足のため分類できない。

吸引性呼吸器有害性: 本品はエアゾールであり、GHS定義による気体ではない。

内用液はデータ不足のため分類できない。

その他: 液化ガスが皮膚に触れると、炎症や凍傷を起こす恐れがある。

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性: 製品データなし

残留性・分解性: 製品データなし

生体蓄積性: 製品データなし

土壌中の移動性: 製品データなし

オゾン層への有害性: 製品データなし

その他: 現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物・汚染容器及び包装:

- ・関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
- ・廃棄をする場合には、内容物を完全に排出した後に行う。
- ・残留した内容物を排出するときは、必ず風通しの良い火気の無い屋外で行う。
- ・気化し多量の可燃性蒸気を発生する液化ガスが内用液に溶解しているため、回収するときはガスが抜けてから容器を密閉する。
- ・中身が出なくなるまで排出した後でも破裂する恐れがあるので、火中に投じない。

#### 14. 輸送上の注意

- ・運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込、荷崩れ防止を確実に行う。
- ・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。

##### 国内規制

陸上輸送： 消防法、道路法等の輸送について定めるところに従う。

海上輸送： 船舶安全法に定めるところに従う。

海洋汚染物質： 非該当

航空輸送： 航空法に定めるところに従う。

緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号： 126

##### 国際規則

陸上輸送： ADR/RIDの規則に従う。

・国連番号： 1950

・品名： エアゾール(引火性のもの 1Lを超えない)

・国連分類： 2. 1

・容器等級： -

海上輸送： IMOの規定に従う。

・国連番号： 1950

・品名： エアゾール(引火性のもの 1Lを超えない)

・国連分類： 2. 1

・容器等級： -

・海洋汚染物質： 非該当

・MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質： 該当しない。

・IBCコード： 該当しない。

航空輸送： ICAO/IATAの規定に従う。

・国連番号： 1950

・品名： エアゾール(引火性のもの 1Lを超えない)

・国連分類： 2. 1

・容器等級： -

---

#### 15. 適用法令

##### 消防法:

- ・非危険物

##### 労働安全衛生法:

- ・危険物 (引火性物質、可燃性ガス)
- ・施行令 別表1-4 引火性のもの
- ・有機溶剤中毒予防規則 非該当

##### 高圧ガス保安法:

- ・適応除外(液化ガス、可燃性ガス、圧縮ガス)。但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規程に従う。

##### 船舶安全法:

- ・危険物 (高圧ガス)

##### 航空法:

- ・高圧ガス

##### 化学物質管理促進法:

- ・非該当

---

#### 16. その他の情報

##### 引用文献:

- ・NITE化学物質総合情報提供システム
- ・NIHS国際化学物質安全性カード
- ・環境省Chemi coco
- ・労働安全衛生法対象物質データ

##### その他:

- ・このSDSは、当社の製品を適正にご使用戴くために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象としたものです。
- ・記載内容は、現時点で入手した資料、情報データに基づき作成しておりますが、危険、有害性に関する評価は必ずしも十分なものではありませんので、取扱いには十分注意してください。
- ・このSDSは、法令の改正新しい知見により予告なく改定することがあります。
- ・危険有害成分の濃度(%)表示の幅記載は「以上～未満」を示しています。